

きそさき 議会だより

VOL. **82**
2015
平成27年2月1日発行



今回の表紙(めりえ)



南部幼稚園・保育園
ごとう しおさん
の作品

おもな内容

第4回定例会 **2~3**

ここが聞きたい【一般質問】 **4~8**

行政報告 **9~10**

議会日誌 **11**

議員トピックス **12~13**

本年もよろしくお願ひします。

木曾岬町議会議員 定数8名



議長 三輪 一雅



副議長 伊藤 浩



9番議席 伊藤 正



8番議席 伊藤 好博



6番議席 伊藤 律雄



3番議席 上村 幹夫



2番議席 伊藤 守



1番議席 服部 英二夫

第4回木曾岬町議会定例会は、12月9日から16日までの8日間の会期で開催されました。

今回の定例会には、平成26年度の各会計補正予算案6件、条例制定および改正案6件、承認案1件、諮問案1件の、合わせて14件の議題が審議されました。

会期日程の内容は次のとおりです。

9日の開会日には、会期の決定を行った後に、加藤町長から行政報告を受け、その後、承認案1件を上程し、町長の提案理由の説明と所管課長の説明を受け、質疑・討論・採決を経て、原案のとおり承認されました。次に、議案12件を一括上程し、町長の提案理由説明と所管課長の詳細な説明を受けました。次に、諮問案1件を上程し審議を行い、原案のとおり適任者として答申することで採択がされました。

12日には、一般質問が行われ、4名の議員が質問に立ちました。(その内容は「ここが聞きたい一般質問」を参照) その後に、議案の質疑を行い散会しました。

16日の最終日には、初日に上程された議案12件について、討論・採決を行い、全議案ともに全会一致で原案のとおり可決し、第4回定例会は閉会されました。

平成26年 第4回 木曾岬町議会 定例会

議事内容

可決した議案 ◎執行部提案

議件名（議案の内容）

議案第63号

平成26年度三重県桑名郡木曾岬町水道事業会計補正予算(第2号)について

※収益的収支における支出予定額を478千円追加し、197,487千円とする補正予算です。
主な補正内容は、漏水等の修繕に要する経費の増額を行っています。

議案第64号

木曾岬町指定介護予防事業者の指定に関し必要な事項並びに指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定について

※介護保険法の改正により、法の定めに沿って指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定めるための条例の制定を行っています。

議案第65号

木曾岬町包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の制定について

※介護保険法の改正により、法の定めに沿って地域包括支援センターの設置者が遵守しなければならない包括支援事業を実施するために必要な基準を定めるための条例の制定を行っています。

議案第66号

町長の給与及び旅費に関する条例の一部改正について

※平成26年人事院勧告に準じ、町長の期末手当の支給割合を変更しようとするものです。

議案第67号

木曾岬町職員の給与に関する条例の一部改正について

※前号と同様に、平成26年人事院勧告に準じ、職員の給与等に関し所要の改正を行おうとするため、本条例の一部改正が行われています。

議案第68号

木曾岬町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正について

※平成18年度の給与構造改革による給料の経過措置について、人事院勧告に基づき廃止しようとするため、本条例の一部改正が行われています。

議案第69号

木曾岬町消防団員等公務災害補償条例の一部改正について

※次代の社会を担う子どもの健全な育成を図るための次世代育成支援対策推進法等の一部を改正する法律の一部の規定が施行されることに伴い、本条例の一部改正が行われています。



議件名（議案の内容）

承認第3号

専決処分事項の承認を求めることについて(平成26年度三重県桑名郡木曾岬町一般会計補正予算(第3号)について)

※第47回衆議院議員総選挙、第23回最高裁判所裁判官国民審査の執行が決定したことにより、急激に選挙執行経費を予算措置するため、11月21日に専決処分を行ったことから、この承認が求められたものです。

議案第58号

平成26年度三重県桑名郡木曾岬町一般会計補正予算(第4号)について

※既決予算額の総額から歳入歳出それぞれ6,000千円を減額し、予算総額を2,825,600千円とする補正予算です。今回の補正の主な内容は、歳入では、町税の滞納整理によって過年度分の収納額の増加が見込まれるほか、国庫支出金では、保育緊急確保事業や社会保障・税番号制度システム整備に要する補助金の追加を行い、歳出では、人事院勧告による人件費の補正や担い手農家に係る経営体育成事業補助金の減額や源緑水防センター実施設計委託料の減額など、各事務事業の精査による予算額の増減が行われています。

議案第59号

平成26年度三重県桑名郡木曾岬町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について

※既決予算額の総額に歳入歳出それぞれ129千円を追加し、予算総額を996,629千円とする補正予算です。主な補正内容は、歳入では特定健康診査等負担金の交付額の確定による増額、歳出では電算システムの更新に伴う関係経費の精査により増額しています。

議案第60号

平成26年度三重県桑名郡木曾岬町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について

※既決予算額の総額に歳入歳出それぞれ582千円を追加し、予算総額を104,282千円とする補正予算です。主な補正内容は、歳入では保険基盤安定制度負担金の確定に伴い、一般会計からの繰入金を増額し、歳出では後期高齢者医療広域連合への納付金を増額しています。

議案第61号

平成26年度三重県桑名郡木曾岬町介護保険特別会計補正予算(第2号)について

※既決予算額の総額に歳入歳出それぞれ28,000千円を追加し、予算総額を407,600千円とする補正予算です。主な補正内容は、歳入では国・県・支払基金からの交付金、一般会計からの法定繰入金並びに介護給付費準備基金からの繰入金を増額し、歳出では居宅介護サービス給付費や施設介護サービス給付費などにおいて今後の給付の伸びを見込み、増額しています。

議案第62号

平成26年度三重県桑名郡木曾岬町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)について

※既決予算額の総額に歳入歳出それぞれ1,000千円を追加し、予算総額を287,000千円とする補正予算です。主な補正内容は、歳入では一般会計からの繰入金を増額し、歳出では下水道使用料等検討委員会委員報酬の追加、処理場及び中継ポンプ等の電気料などを増額しています。

1111
聞きたい

一般質問

この記事は、通告順に掲載し、議員本人が作成した原稿を

議会広報常任委員会が編集したものです。

なお、掲載文は紙面の都合で要約されておりますが、

一般質問の全文は

木曾岬町議会議会記録（北部公民館にて公表）で

ご覧いただけます。

町政のゆくえは…

4名の議員が質問

ページ数

5

6番議席 伊藤律雄 議員

- 自主運行バス対策について

ページ数

6

7番議席 伊藤 浩 議員

- 町有財産（未利用地）の有効活用について

ページ数

7

9番議席 伊藤 正 議員

- 安心・安全な県道に
- 木曾岬干拓地にリニア残土の搬入を
- 農家所得の向上対策について

ページ数

8

2番議席 伊藤 守 議員

- 複合型施設建設について

Q&A



一般質問



6番議席 **伊藤律雄** 議員

自主運行バス対策について

料金の改定は考えていない

町長

質問

木曾岬町自主運行バス対策及び経費についてお尋ねします。木曾岬町においては現在高齢化が進んでおり、自主運行バスは移動の手段として、毎日の生活の中で、大変必要なものであると思います。しかしながら、運行経費の面では、平成23年度で998,911円、平成24年度で1,047,892円、平成25年度で1,365,136円という、多額の赤字であります。平成26年度は県の補助金も廃止されたことにより、1,466,200円あまりの赤字が見込まれるようです。

答弁

町といたしましては、公共の福祉を確保する観点等からも自主運行バス事業を実施していることをご理解いただきますようお願いいたします。ご提案をいただいております設定の見直しについては自主運行バス事業の目的などを踏まえまして、利用者負担増となる料金改定については現在のところ検討を考慮しておりません。今後の自主運行バス事業は、利便性を高める施策とより良いサービスの提供を考え、利用者を増加させることで収入を確保しながら一日も長く運営できるように努力をしていく所存です。

再質問

平成23年度から平成26年度を計算させていただきます。約3,900万円弱の赤字となります。4年間で赤字が莫大

再答弁

地域公共交通会議を必要に応じて開催し、

になってきていることをもう一度しっかりと運営面で努力していただきたい。町民の皆さん方が安心して喜んでいただけるような料金設定を望むものであり、多額に料金を上げることを言っているのではないので、今後しっかりと対策を考えていただきたい。今一度、検討について答弁を願いたい。

ご指摘のことをも含めて検討していくということになると思います。こうしたことから、具体的に今どのようなしていくかということについては答弁は差し控えてさせていただきます。バスの運行に対しては、木曾岬町内の便利な足を確保していく、そして安価で皆さん方が利用しやすいように運行していくことは基本だと思っています。



自主運行バス



7番議席 伊藤 浩 議員

町有財産(未利用地)の有効活用について

最も有効な利活用を図っていく

町長

月に取得以来11年が経過します。取得の目的は公共事業の代替地等とされていたように思いますが、この土地に関しても今後の利活用をどの様にされるのか、お伺いします。

要素もあり、思いのほか長期にわたる保有となりましたが、今後とも、県道バイパスの事業促進と地域開発の推進剤となる要素の一つとして保有し、最も有効な時に利活用していきたいと考えています。

質問

町が保有する財産に關しましては、9月に財産に関する調書等の報告がありました。この内、代表的な未利用地として、栄地内旧幼稚園跡地(約2,600㎡)があります。この土地は平成21年3月に園舎が取り壊されてから5年余りが経過しています。



三崎地内未利用地:近景

この間、除草など管理はされてきていますが、具体的な今後の活用が示されていないように思います。今後どのように利活用されるのかお考えをお伺いします。

また、同様に土地取得特別会計で保有する三崎地内の土地(約6,400㎡)に關しましても、平成15年11



栄地内未利用地:旧幼稚園跡地近景

答弁

町の保有財産の未利用地に關して、栄地内の旧幼稚園跡地につきましては、売却を行うために、平成25年3月に普通財産の一般競争入札を行いました。が、応札者がなく、価格の見直しなどを行い、再度入札に付すことも検討しましたが、来年に建設を予定する複合型施設建設事業の工事期間中の役場職員及び学校教職員などの駐車場に利用するものと考えています。また、土地取得特別会計で保有する三崎地内の土地につきましても、県道バイパスの建設事業と新たな国道23号線交差点周辺で検討された当時の都市計画事業などの利用や代替地として確保したものです。取得計画の時から大きく状況が変化した経済状況や地域社会の開発意識などさまざまな

再質問

三崎地内の土地に關して、県道バイパスが国道23号線から北進した際には、位置的なことや面積的にも、地産地消や道の駅などの施設用地として検討できるのではないかと考えています。

再答弁

国道23号線交差点から北への延伸につきましては、まだ事業化区間になっていないことから、この点も県に申し上げており、1年でも早く事業化していただくよう努力を圖っています。従って、三崎地内の土地の活用につきましては、具体的に周辺一帯の整備が進むのと並行して、産直や直売施設といったことも検討していくことになるとも思っています。

一般質問



9番議席 伊藤 正 議員

安心・安全な県道に

地区からの要望について 県と交渉をしていく

町長

質問

町唯一の県道は、道幅の狭い所の改修や蓋付き側溝への改修、街路灯の設置、狭い橋梁の改修等々、町民の皆様からの要望の声が聞かれます。対応はどのようになっていますか。

現在の県道を町道にして、計画にある名四国道から北進する新県道の建設を知事との1対1対談で要望すべきではなかったでしょうか。

答弁

道路改良に伴う、加路戸・西対海地・中和泉・富田子各地区の要望区間については、沿線の方がたの用地協力や家屋等の移転補償などが伴うため、こうした点を含め、県と交渉を進めています。



木曾岬干拓地にリニア残土の搬入を

受入れ候補地の一つとして県に 相談がされている

町長

質問

2027年に開業が予定されるリニア中央新幹線、そのトンネル工事によって排出される残土を木曾岬干拓地内に残る未利用地に搬入を考えられるべきではないでしょうか。また、愛知県側の土地はどのように考えられていますか。

答弁

中央新幹線については、開業に向け、いよいよ東京―名古屋間の工事が始まるうとしています。現在、県有地であることから三重県に確認したところ、JR東海からは複数検討している受入れ候補地の一つとして、木曾岬干拓地への搬入に関する相談を受

農家所得の向上対策について

新たな政策に関する説明会を 予定する

町長

質問

平成30年の減反政策の廃止や農産物価格の低迷で、若い農業者の離農や補助金の返還もありました。農家も迷ってみえます。事業推進にあたり、説

明はきちんとされていますか。

答弁

国は平成25年に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を決定し、

けていることについては、

リニア中央新幹線

基本方針を達成するための実施施策として、①新たな需要の拡大。②付加価値の向上。③生産コストの削減。④高齢化が進行する農村の構造改革が示されています。当町でも農家所得の向上対策として、1月に農業者を対象とした説明会を開催する予定で調整しています。





2番議席 伊藤 守 議員

複合型施設建設について

必要最小限の施設として
スリム化を図っています——町長

質問

複合型施設建設に関して、建築によるメリット・デメリットがあるかと思いますが、木曾岬町の将来人口は減少していくと考えられ、老人の人口が総人口に占める割合は平成37年には33%になると推計もされています。今後、町の台所事情はどのようになっているのか、不安が多いと思います。

予定する建物に関してもスリムにした方が、後孫のためにも良いのではないのでしょうか。町長の考えをお聞きます。

答弁

複合型施設は、高台避難所と防災拠点及び庁舎機能を主要な施設といたしまして、図書室、町民ホールをあわせて建設し、既存の保健センター及び福祉・教育センターと一体的に整備を図るものであり、

新たに建設する図書室・町民ホールは、文化・芸術に触れることで豊かな心を育み、感動や喜びとともに教養を高め、文化や人々の交流を促すことによって、子どもから高齢者までの幅広い世代におけるさまざまな教養、文化、芸術の楽しさを伝える拠点としての役割を担います。

なお、建設における財源確保には最大限の努力を図って、将来に影響を及ぼさないように、しかし、将来の木曾岬にとって最小限これだけは必要だということまで、懸命のスリム化を図ってきております。

木曾岬町の人口が減っていく、そういう町に対して、複合型施設の建設事業費は設備を入れると30億円近くになり、光熱費なども増えることとなります。

再質問

木曾岬町の人口が減っていく、そういう町に対して、複合型施設の建設事業費は設備を入れると30億円近くになり、光熱費なども増えることとなります。

高齢者の方が増え、生産人口は減っていく中で、そうした大きな建物の建設は

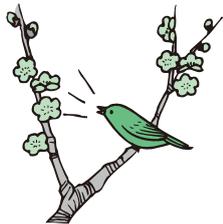
どうなのかと疑問を感じる人もいるかと思えます。その点、ご答弁をお願いします。

再答弁

人口の減少については、総合計画の中でも施策を打ち出して取り組んでいくこととしており、今年度も対策を講じているところですが、人口の減少なり動態のことにについては、これは当町だけに限らず全国的な問題で、その中で、国も県も私も市町も一体となっていて、それに対する対策を講じていく。

これは、最優先で取り組んで行く必要があるという認識を持っておりません。

複合型施設イメージ図



行政報告

要旨



加藤 隆 町長

行政報告として、未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境を創るために、今後ますます重要性が高まる子ども・子育て、行政と新たな教育行政のあり方について、その一端を報告させていただきます。

この秋、第51回の町民体育祭が快晴のもと、子どもからご年配の各世代の皆様が一堂に会して盛大に開催され、参加された人も応援する人もスポーツを通してお互いがふれあい、交流を深め皆様の明るく元気な姿に町の元気を感しました。こうした町民の皆様方の活力をより一層育み、次の世代へと継承し、この木曾岬

町の魅力を更に発展させていく事が大切であると改めて感じたところでございます。

第5次総合計画においては、「暮らしを守り豊かな心と活力を育む、きずな深めるまち」をめざし、その実現を図るための一つとして、町民憲章に掲げております「次代を担う人を立派に育てる町づくり」に力をつけたいと考えております。その意味で、教育の果たす役割は大きく、教育委員会が掲げる基本方針のもと、未来を担う子どもたちに、「生きる力」を育むとともに、生涯にわたり、郷土に誇りを持ち、さらには国際化社

会に羽ばたけるグローバルな人材として成長していくことを期待しております。まず、福祉の分野では、幼児期の子ども達を対象とした「子ども・子育て」について、国の施策として関連の制度と財源を一元化し、新しい仕組みとして質の高い幼児教育・保育の総合的な提供を図るため、平成24年8月に「子ども・子育て支援法」等、子ども・子育て関連3法を制定し平成27年4月1日からスタートします。

新たな制度は、少子高齢化問題の解消とともに、「一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社

会の実現」をめざしており、町が実施主体として地域の特性や課題に即した「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画的に教育・保育、地域子育て支援を提供する責任を負うこととなります。

この「子ども子育て支援事業計画」は、平成27年度からの5年間を計画期間として、対象となる就学前の子育て世帯からのアンケートを基に「木曾岬町子ども・子育て会議」において協議し、今年度中に策定をいたします。

かで、身近な相談相手が無く育児不安等に陥る親が多いと考えられております。このような中で、本町では、子どもが少ないこともあり、それぞれの親子に向き合い、妊娠初期の母子手帳交付時から出産、子育てへと一貫して顔の見える支援が実現できているものと考えております。

今年度は、三重県少子化対策市町創意工夫支援交付金を活用して、安心して子どもを産み、育てられる町の実現を目指して「ハッピー☆チャイルドケア事業」を開始しているところです。事業内容としましては、小学校5年生及び中学校2年生の児童生徒を対象に、助産師による講座や妊婦体験、町内に住む乳児と母親9組の協力を得て、乳児とふれあう「赤ちゃんふれあいセミナー」を実施いたしました。命の大切さや、子育てについて考えるきっかけになればと考えておりま

す。

また、早産や低体重児の出生及び乳幼児への菌周病り患のリスクを軽減するための妊産婦の菌周病予防検査の実施、助産師による出張型相談事業や虐待防止として「揺さぶられ症候群予防講座」に合わせて保護者同士の交流会も実施しているところ、新たに「親子支援地域ネットワーク会議」を設置し、地域の組織や学校、子育て支援事業者が相互に連携し、地域の方々とともに子どもの健やかな成長を支援していきます。

次に、教育分野では、小学生、中学生を中心に目を向けてみますと、昨今の教育課題としては、いじめ、学力の向上、グローバル人材の育成などが挙げられます。

いじめ問題につきましては、6月と9月に「いじめ防止基本方針」等関連議案を議会でも認めて頂き、教

育委員会とともに連携・協力体制を整えさせて頂いたところでございます。

学力の向上につきましては、4月の広報でも紹介しましたように、教育委員会では、まずは、学力の向上を図るべき施策として、学校では、授業の充実や補充学習に取り組んでいます。

授業の充実においては、これまで、少人数教育を進めるための人的配置、マンツーマンによる教員の指導力向上、研修の支援、ICT機器の整備などを進めており、補充学習では、学習支援員の配置、大学生ボランティアの派遣、退職教職員による授業支援を進めております。

また、子育ては学校と家庭の両輪と言われており、家庭における役割は大きく、学校と家庭の協働した子育てが重要となります。トマッピー教育プランに掲げられた「子育て 8つの指針」をもとに、保護者・地域の

皆様との協働した教育が進められるよう教育講演会、懇談会など啓発の機会を持ち、家庭学習、読書習慣の定着を図るなど取り組んでおります。

具体的例の一つをご紹介します。中学校的テスト期間に合わせて、幼稚園・保育園、小学校では木曾岬町読書週間を実施しています。

また、相可高校「まごの店」の仕掛け人である岸川さんの講演会を企画したり、子育て交付金事業として、保護者、生徒向けの性教育の学習会を行ったりするなど、町民の皆様にも参加いただく機会を持ち、啓発をすすめているところであります。

さらに、近年、大津市で起きた「いじめ」問題に端を発して、教育再生実行会議が、地方教育行政の権限と責任を明確にするため、教育委員会制度全体の見直しを求めました。

その結果、平成26年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正をされました。

このことに伴い平成27年4月以降、首長と教育委員会が協議・調整を行う場として、首長が主宰する総合教育会議が必置されるなど、これから教育行政が大きく変わろうとしています。

今後の新教育委員会制度移行を円滑に進め、「木曾岬っ子は、町の宝」、「このまちで子どもを育てたい」、そんな教育のまち「きそさき」をめざして、教育行政を展開していけるよう、現在、教育委員会との調整を図っているところであり、木曾岬町の将来を担っていく大切な子どもたちの健やかな成長を願うところであります。

以上のことを申し上げます。行政報告といたします。

議会日誌

2014 10月

- 21日●町議会議員行政視察(静岡県 袋井市・吉田町)に議員全員出席
- 24日●三重県市町総合事務組合自治体議員研修(第2回:津市)に議員多数出席
 - 桑名・員弁広域連合出納検査(桑名市)に議長出席
- 25日●治水昭和の宮例祭(海津市)に議長出席
- 27日●知事と町長との1対1対談(ふるさと創生ホール)に議員多数参加
- 28日●三重県町村議会議長会理事会(津市)に議長出席
- 30日●介護保険事業運営委員会に伊藤(正)議員、伊藤(守)議員出席

2014 11月

- 2日●秋の文化祭(町体育館)に議員多数出席
 - 消防団消防技術競練会上村議員、伊藤(守)議員出席
- 5日●北勢5町議会議員研修会(桑名市)に議員全員出席
- 7日●北勢5町議会議長会(朝日町)に議長出席
- 10日●三重県関係部長等との意見交換会(津市)に議長出席
- 11日●議会マネジメント研修(津市)に常任委員長出席
- 12日●第58回町村議会議長全国大会(東京都)に議長出席
- 13日●例月出納検査
- 13・14日●定期監査
- 23日●桑名・員弁広域連合出納検査・定期監査(桑名市)に議長出席
- 27日●三重県町村議会議長会 県議会に対する要請活動(津市)に議長出席
 - 防犯委員会に伊藤(守)議員、上村議員出席
- 28日●議会全員協議会

2014 12月

- 4日●議会運営委員会
- 6日●新桑名市誕生十周年記念式典(桑名市)に議長出席
- 7日●町内一斉清掃に議員多数出席
- 9日●木曾岬町議会第4回定例会(初日)
 - 議会議員懇談会
- 10日●例月出納検査
- 12日●第4回定例会(一般質問日)
 - 議会全員協議会
- 16日●第4回定例会(最終日)
 - 行政視察
- 17日●社会福祉協議会第3回評議員会に伊藤(浩)議員出席
- 19日●“新成人と語る集い”に議長出席
- 24日●河川防災ステーション起工式(源緑輪中地内)に議員多数出席
- 25日●桑名・員弁広域連合例月出納検査(桑名市)に議長出席
- 30日●年末防犯夜警に伊藤(守)議員出席

2015 1月

- 3日●木曾岬神社正月祭に議員全員出席
- 10日●成人式に議員多数出席
- 11日●消防出初式に議員全員出席
- 13日●議会広報常任委員会
- 15日●例月出納検査
- 16日●桑名広域清掃事業組合第1回臨時会(桑名市)に議長出席
- 21日●議会広報常任委員会

木曾岬町議会の
LINE@を登録しよう!!



上記QRコードを読み取り、木曾岬町議会のLINE@を登録すると定例会や各種委員会の情報を受け取ることができます!

議会をぜひ、傍聴にきてください。

議会は、どなたでも自由に傍聴することができます。

次回、3月定例会、本会議の予定です。

- 3月 4日(水) 午前9時 開会、議案上程を予定しています。
- 3月 16日(月) 午前9時 一般質問を予定しています。
- 3月 18日(水) 午前9時 議案採決、閉会を予定しています。

なお、各日程等は変更する場合がございますので、お手数ですが、議会事務局までお問合せください。

●問合せ先/議会事務局 ☎68-6108

みなさまのご意見を募集しています。

議会に対して、普段、感じていること、疑問に思うこと。また、要望など、何でも結構です。

ご意見、ご質問をお寄せください。

●提出先/議会広報常任委員会(議会事務局) ☎68-6108



～町村のさらなる振興発展をめざして～

町村議会議長全国大会が開催されました

11月12日(水)、東京都渋谷区の「NHKホール」で、第58回町村議会議長全国大会が開催され、三輪議長が出席されました。

この大会は、「東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による影響は、被災地のみならず我が国社会全体に及んでおり、本格的な復興に向けてまだまだ多くの課題が山積しており、今こそ、英知と決断、そして迅速な対応により本格的な復興への取組みを加速化させるとともに、地方の創生と人口減少の克服を図り、町村の自治能力を高め、都市と農山漁村が「共生」しうる社会を強力に進めていくことが重要であり、国は、地方分権改革を推進するため、本年、「第4次一括法」を制定するとともに、新たに「提案募集方式」を導入したが、依然として残された課題は多く、これまで以上にきめ細かく町村の声に耳を傾け、真の分権型社会が実現されることを強く期待し、町村のさらなる振興発展をめざし、一致結束して、果敢に行動していくこと。」を確認し、当日、「東日本大震災からの復興及び大規模災害対策の確立」「道州制導入阻止と分権型社会の実現」といった大会決議16項目の採択と「町村税財源の充実強化」「道州制の導入に断固反対」などの特別決議5項目を採択し、終了しました。



町内一斉清掃に参加しました

12月7日(日)、「町内一斉清掃の日」に議員も参加し、主要道路などに落ちている空き缶などのごみ拾いを行いました。年2回実施されているこの町内一斉清掃には、早朝より多くの方々にご参加いただき、地域周辺の環境美化活動を行っていただいております。活動を通じ、地域の一体感やボランティア意識の高揚などが感じられました。今後とも、地域美化にご協力をお願いします。



国土交通省源緑河川防災ステーション起工式に出席しました

12月24日(水)、源緑輪中地内に整備を予定する河川防災ステーションの起工式が行われ、議員も多数出席しました。この工事は平成29年度末に完成の予定とされています。



行政視察を行いました

10月21日(火)、町議会議員行政視察として、静岡県袋井市、同吉田町に出張しました。

今回の行政視察の目的は、防災に関する研修として、袋井市では、液状化危険度マップ、津波対策の取組として進められている、避難場所確保対策、ブロック塀等の耐震改修促進などの事業の聞き取りと、避難施設である高台「湊 命山」、「浅羽地区津波避難タワー」の施設見学をおこないました。吉田町では、防災・減災と地域成長を両立させた魅力ある地域づくりとしての内陸フロンティア推進区域における物資供給拠点確保事業、防災公園の整備の状況などを聞き取り、町域の海岸部地域に15基（歩道橋型津波タワーを含む。）設置された「津波避難タワー」の施設見学を行いました。

袋井市の「湊 命山」、吉田町の「津波避難タワー」の見学を終え、避難対策に向けたそれぞれの市町の取組みは、今後の木曾岬町の津波避難施設確保に関する課題の整理に向けて大いに参考となるものでした。



【袋井市：「湊 命山」】
敷地面積 6,433㎡ 盛り土天端部分面積 1,300㎡
収容人員 1,300人



【吉田町：津波避難タワー(歩道橋型)】
延面積 628㎡ 収容人数 1,200人

北勢5町議会議員研修会が開催されました

11月5日(水)、桑名シティホテルにおいて、関係町の議員が一堂に会し、議員研修会が開催されました。この研修会は、本年5月23日に北勢5町(菟野町・朝日町・川越町・東員町・木曾岬町)議会議長会が設立され、今後、5町の連携を密にし、議会活動の進展を図ることを目的にした事業の一環として行われました。

当日は、政治ジャーナリストの小枝 義人氏を講師に招き、「安倍内閣の課題と今後の政局展望」というテーマで講演が行われ、各町の議員さん方には国政の動きを熱心にお聞きいただきました。今後の議会活動に役立てていただきたいと思います。



編集後記

昨年より町内の景観もゆるやかな変化が見られるように思います。

木曾川堤防では、高潮耐震工事により、上流部においては鍋田川上水門改築工事、下流部では木曾川源緑高潮堤防補強工事が施工されています。工事が終了すれば、より力強い堤防に姿を変えるものと思います。

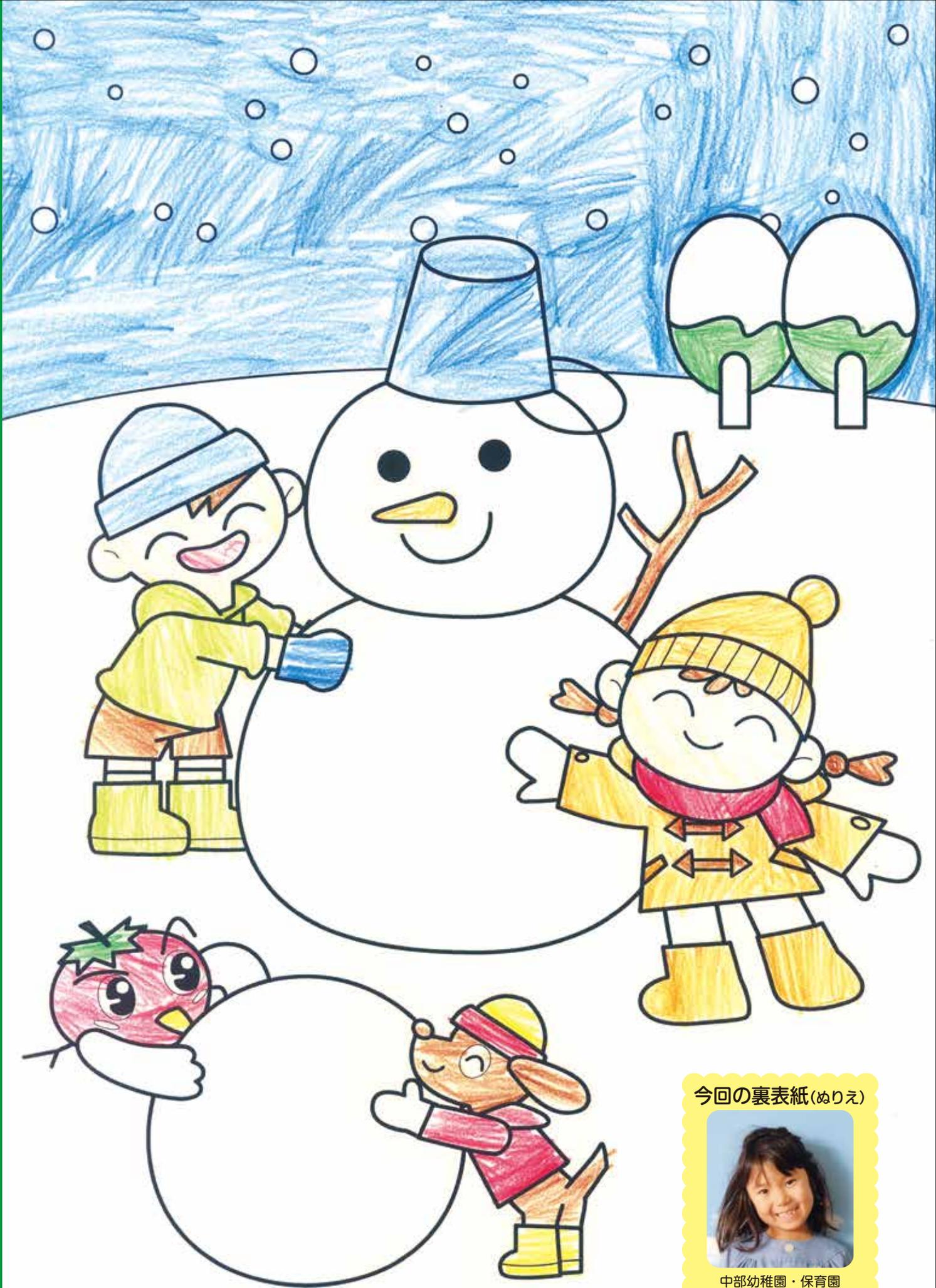
木曾岬干拓地においてもメガソーラーの運転開始となり、2月3日に竣工式が予定されています。

避難所・防災拠点としての複合型施設も実施設計が進められており、早期完成を願うところです。津波避難施設整備計画も進められており、安心・安全な住みよい町づくりをめざし、議会活動に励みます。

ここに、第82号の議会だよりをお届けします。紙面へのご意見・ご感想をお待ちしております。

議会広報常任委員会一同





今回の裏表紙(めりえ)



中部幼稚園・保育園
はっとり ゆずはさん
の作品